

学校だより



令和3年9月1日
横浜市立二谷小学校
校長 矢島 孝幸

夏の思い出…

学校長 矢島 孝幸

残暑の厳しさが続きますが、朝・夕に吹く風や青空の様子から、少しずつ秋を感じる今日この頃です。今年も不要不急な外出を自粛する夏となりました。このような状況下で私の巣ごもり生活を癒してくれたのは、「東京オリンピック 2020」のテレビ観戦でした。私は、元々スポーツ観戦が好きなので、普段あまり接しないスポーツをテレビでじっくりと観戦できたのは、平凡な日々には刺激を与えてくれました。印象に残っているのは、柔道における兄妹での同日金メダルです。オリンピックが始まった直後の競技だったことと兄妹での金メダルという話題性もあったので、テレビにかじりついてしまいました。試合をしている時の表情・鋭い眼光・気合いに惹きつけられました。次は、最終日の男子マラソンです。有言実行を貫いてきた日本人選手がどのようなレースをするのかとても関心がありました。残念ながらメダルには届きませんでした。この日に照準を合わせた自己管理と最大限の力を発揮するためのレース戦略の素晴らしさを感じました。レース後の「今後は後進の育成に尽力したい。」というコメントに胸を打たれたと同時にこれまでの努力を感じずにはいられませんでした。私のような凡人には想像を絶する苦勞と努力を重ねてきたのでしょう。ただ、この選手のように「やり切った」と思えるような満足感を味わえるよう、自分自身も日々努力をせねば…と背中を押された気がします。他の競技者からも様々な感動・笑顔・勇気をもらった「東京オリンピック 2020」でした。閉幕後に近隣の公園でジョギングしていると、スケートボード練習場で練習している人の数が急激に増えたのには驚きました。特に低年齢層の競技人口が急増している気がします。オリンピックが及ぼす影響は凄いですね。次は「パラリンピック」です。オリンピックとは違う感動・勇気・元気をもらえることを期待しています。

7月29日・30日に「二谷小学校の建替えに伴う 学校規模適正化に関する説明会」を体育館で開催しました。これを機に二谷小学校の歴史について調べてみました。

明治38年「横浜市第六高等小学校」として開校校舎建築・完成。

明治41年「横浜市尋常高等二谷小学校」となる。

大正 9年「横浜市尋常二谷小学校」となる。※高等科児童は浦島小へ移る。

大正12年「横浜市二谷尋常小学校」に改名する。※関東大震災で校舎に大きな被害を受け、露天授業を行う。

大正13年「横浜市二谷尋常高等小学校」となり改めて高等科を置く。※尋常科(1・2・3年)は2部授業となる。

昭和 2年「二谷小学校の歴史上で最大児童数(2166名)」となる。

昭和16年「横浜市二谷国民学校」と改名する。※昭和17年 横浜市斎藤分国民学校開校。

昭和20年 横浜大空襲で校舎焼失。

昭和22年「横浜市栗田谷小学校」と改名する。※斎藤分小学校が栗田谷小学校に統合。

昭和24年「横浜市立二谷小学校」となり、現在地に移る。

※昭和33年斎藤分小学校、再び開校する。

【創立100周年記念誌 らたつや より引用】

今年度116年を迎えた二谷小学校の歴史と伝統を改めて実感しました。本校を愛してくださる卒業生の皆様、地域・保護者の皆様が数えきれないほど存在していることが推察できます。多くの皆様に支えられていることを胸に秘め、全教職員で本校の教育活動に尽力してまいります。コロナ収束傾向がなかなか見えませんが、子どもたちの安全を最優先して日々の教育活動を進めていきます。